

令和7年10月14日

◎上治委員長 ただいまから、人口減少対策調査特別委員会を開会いたします。

(14時28分開会)

◎上治委員長 本日の委員会は、県内の結婚相談業務を行う事業者からの意見聴取についてであります。

委員会の日程につきましては、お示ししました日程案によりたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

(異議なし)

◎上治委員長 御異議なしと認めます。

それでは、日程に従い、県内の結婚相談業務を行う、特定非営利活動法人LIFEと、こうち結婚推進協会から説明を受けることにいたします。

まず最初に、特定非営利活動法人LIFEからお話を伺います。代表理事の井上義之様におかれましては、人材育成、イベント運営、移住・定住、農業者支援等を行うほか、婚活を支援するため、四万十町出会い系応援センターにてとてとを開設し、出会い系のサポートなどに取り組まれておられます。また、県マッチング会員の引き合わせに立ち会うマッチングサポーターに就任いただくなど、本県の出会い系や結婚の活性化などに、御尽力をいただいております。

御多用のところ、当委員会へ御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。本日は、四万十町出会い系応援センターにてとの取組を中心に御説明を受けました後、意見交換をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひをいたします。

それでは続きまして、各委員を紹介させていただきます。

(委員紹介)

◎上治委員長 それでは、早速ではございますが、御説明をお願いをいたします。

◎井上代表理事 御紹介いただきました特定非営利活動法人LIFEの井上と申します。本日は貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございます。御説明させていただきますけども、こちらの資料の前に私がどういった思いでこの事業に取り組むのか、というところをちょっとお話をさせていただいてと思っております。

実は私、もともと四万十町役場の職員でして、役場を辞めて来年の3月で8年になります。議会事務局の担当はさせていただいたことはなかったんですけども、役場の職員として21年勤務してまいりました。勤務している途中で、私がある女性の方と結婚じゃないですけど御縁がありまして、その方とお話をする中ですごく印象に残った言葉がありました。それをお話させていただくところから始めさせていただきたいと思うんですけど。ある女性の方にお話をいただく中で、質問を2つ受けたんです。もしよければ皆さんの中でもちょっとお答えいただけたらなと思うんですけども。1つは、「大切な人は誰ですか」と

いう質問と、もう1つは、「大切な時間はいつですか」という。この2つの誰なのか、いつなのかっていうところの質問を受けたんです。私は今結婚してて、明後日、娘が20歳の誕生日を迎えるんですけども、やっぱり娘と妻と一緒に過ごす時間が大切です。というふうにお答えをさせてもらったんです。その方が言ったのは、大切な人、私だったらこう答えますと。私は、今、目の前にいる井上さんが大切で、あと大切な時間はこの瞬間ですっていうふうにその方おっしゃったんです。もう1つおっしゃったのが、確かに奥さんとか娘さんとかが大事だと思うんですけど、今、例えば地震が起きたときに私を助けてますよねとか。あとは、そんな言い方はしないんですけど、帰ってからどうしようかなみたいなことを思いながら話をするのは、やっぱりちょっとどうかなというふうにお話をされたところがあって。すごく僕は衝撃を受けて、なるほど確かにそうだなと。やっぱり今この瞬間、いらっしゃる目の前の方のためにできることをやっぱり大切にする。日々を重ねることのほうが人生大事なことではないかというところにちょっと気付かされます。その中で、行政で仕事をするうちに、だんだんだんだん本当にそういったことが、自分の人生の中で、行政の仕事として出来ているのかっていうところに自分で少し疑問を持つようになってきました。その中でやはり目の前の人を幸せにすることを日々積み重ねていく人生をこれから私は送っていきたいというふうに決意をして、それから数年たつうちに役場を辞めて、間違ってるかもしれないんですけど、自分が正しいって思うことを日々積み重ねる人生を送るために、自分で起業しようと思いましてNPOを立ち上げて、現在に至るところです。

ですので、もともと婚活の事業をやりたいので私たちがNPOをやってるのではなくて、私が目の前の人の幸せのために、日々積み重ねていくことの中で、事業として婚活の事業というのが出てきたから、ある意味またま婚活の事業をやってるって思っていただいたほうがイメージしやすいのかなと思っております。婚活の事業を始めてるNPOのお話ではなく、目の前の人を幸せにしたいと思ったときに、どういった取組をしてきたのかっていうところのイメージを持っていただきながら、この説明を聞いていただいたほうが、皆さんが「なるほど井上はこういうことをしたい、目の前の人のためにやれることをやりたいと思ってるから、こういう事業をやってるんだ」っていうふうに、ちょっと意識をしていただいて聞いていただくと僕としてもうれしいなと思いますので、少し前置き長くなりましたが、そういう話をさせていただきました。

私どもで取組をしていく中で、目の前の人のために一人一人にどんなことができるのかっていうところを日々考えております。今の言い方でいう非常にその生きづらさを感じている方々、例えば障害を持ってる方とか病気をお持ちになってる方とか、お金がなかなか厳しいような方々とか。各結婚相談所とかにも相談されても「ちょっとごめんなさい」と言われる高齢の方々。そういった方々が、結婚したいんだけど結婚相談所には登録出来ないとか、県の登録料1万円払うのも難しいとか、地域的な地理的な問題であったりとか。

いろんな方々が私どものほうに登録をいただいております。例えば障害者の方で、障害の担当さんに相談されても、結婚はまた別ですよ。結婚されてもなかなか障害者の方は対応が難しい。じゃどうしたらしいのっていう方が結局いらっしゃると。そういう方々って、なかなか皆さんがあんまりいい部分があると思います。でもそういう方々のためにこそ、私どもの公共がやってる結婚相談所みたいなポジションってすごく大事なのかなと思っています。

先ほどから私の思いをお話しさせていただいてますけど、そういう人だからこそ応援させていただくというのが私どもの役目としてすごく大事なのかなと思っております。

私も役場にいましたので、様々な事業を、やっぱり縦としての取組をしていかなければならない。予算もそうじゃないとつくれないという部分あるかもしれませんけど、いろんな部分でいろんなところと連携をしながら、まさに議員の皆様がそういうふうな連携の声をかけていただくと非常にやりやすくなると思いますので、後ほど、私どもやっておりますけども移住と婚活っていう事業、そういったところも担当課が別々です。まさに先ほど言ったような、間になるような取組になりますけども、そういうところもぜひ皆さんのお声かけをいただきながら、課長さんをはじめ高知県の担当の皆さんに御協力いただきながら、より課題を抱えているような方々の解決につながるような取組が僕らとしても応援できればなと思っておりまし、そういった思いを持って様々な事業を取り組んでいきたいと思っております。

では、早速資料の説明をさせていただきたいと思います。目次が1ページ目になっておりますけども、こちらが今回、御説明をさせていただく資料になっております。私どもがどんな取組をしているのかというところ、それから「出会い系センターてとてと」の婚活事業の取組というところを、5つに分けて御説明をさせていただきます。

1ページめくっていただきまして2ページ目になります。私ども先ほど申しましたように目の前の方を幸せにするためにどんな取組ができるのか、というところで様々な事業を取り組んでおります。先ほど委員長のほうからもお話をあります、様々な事業を結構やっているんですけども、3ページ目のほうがNPOの概要になっております。

こちらは平成30年8月ということで、3月に役場を退職し8月に法人設立の形になっております。NPOの場合は社員、会員という言い方をいたしますけども、いわゆる従業員とはまた別でございまして、NPOを運営する、会員数、社員数が14名で、あとは正職員4名、アルバイトという形になっております。私も先ほど御紹介させていただいたとおり役場出身でして、退職してNPO法人、あともう1つ、学生服リユース協会というNPO法人の事務局も理事としてやっております。それから行政書士のほうもさせていただいております。

続きまして4ページ目ですけども、もしかしたら、皆様行かれたことがある方もいらっしゃる

しやるかもしれませんけど、四万十町に古民家カフェ半平っていうカフェがございますけども、そちらのほうの指定管理の運営。それから下にてとてとの取組。それから四万十手仕事市というイベントをもう15年ぐらいやっておりまして。こういうクラフトとか、飲食の店舗が120店舗ぐらい並ぶようなイベントを現在は毎年5月にやらせていただいております。ほかにも町内のSDGsの取組であったりとか、それから起業支援、チャレンジショップの運営とかもお手伝い等をさせていただいております。

それから5ページ目です。実際、具体的に四万十町出会い系センターでとてとのほうで、どういうことをしているのかというところですけども。私たち下の項目5つありますけども、大きくはこの5つをやっております。1つは相談対応。登録者であったり、まだこれから登録を考えてくださってる方々、本人はもちろんお母様お父様とか、そういう方々からも御相談を受けたりとかもしております。

それからお引き合わせ、昔でいうお見合いです。それからイベントの開催。イベントにつきましても、いわゆる男女が会うようなマッチングイベントと言ってますけども、そういうイベントであったり、それからどうしてもイベントの中でも恥ずかしかったりとか、こういうときはどんな服着て行ったらいいんだろうとか、いろいろ自分の悩み事を持ってる方々もいらっしゃいます。また、私も先ほど言ったように目の前の人を幸せにしたいというところで、じゃあどうやったらその人たちが自分で幸せになってくれるのかっていうところをサポートさせていただく。つまり彼氏彼女ができるきっかけって、こういうふうなイベントをいっぱいやっても意味はあるんですけど、それよりも、本当に一人一人が幸せな人生を送れるような取組が出来ていれば、そういう人生を重ねていれば、自然に彼氏彼女ができるようになるんじゃないかなっていうふうにも思っております。

そういうところを一人一人のサポートをさせていただくことによって、そういうきっかけをつくりやすくできるんじやないか、またそれによって人生が豊かになるんじやないかなというところも考えて、スキルアップセミナーも開催しております。そういうところでイベントといいましても、そういうふうなマッチングイベント、それから、それぞれが自分の思いをかなえられるような、サポートするような、スキルアップセミナーも大きくやっております。それから伴走支援ということで、先ほどのお話みたいに例えば、どんな服を着て行ったらいいかなとか、デートでどんなところいいんですかとかっていう、実際に、お付き合いをしたこともないとか、女性となかなかお話もしたことのないような人にサポートするような伴走支援のところもやったりしております。

それから婚活サポーターさん、サブサポーターさん、出会い系センターとの連携ということで、県もやっております婚活サポーターの制度も私どもも取り入れております。あと出会い系センターにつきましては、四万十町でも、出会い系を応援してくださる町内のお店、例えばカフェであったりとか美容室であったりとかカメラマンの方とか、そういう方にも皆さ

んを応援していただいて、町ぐるみとして出会いをサポートしていくこうというような取組をしております。

6ページ目です。実際の当センターの概要、どんな方が登録できるのかという御説明になります。基本的に18歳以上の独身の方で町内外問わずどなたでも登録が可能ですという形を当初からとらせていただいております。つまり県外の方からも、最初から登録ができるようにしておりました。というのは、そもそもこの事業をやるうち、当初から移住婚っていう県外の方からも登録ができるような仕組みはもう最初から作っておこうという形にしておりました。四万十町役場のほうも、町内限定にしてしまうとどうしても集まりにくいくらいではないかというところで、町外の人も登録ができるようにした。なので、実際にありますけど、例えば高知市の方と高知市の方のお引き合わせをするということももちろんあります。それはもうどうしても登録者がそうなってきます。町内外誰でもいいとなつてますので、県外の方と県外の方をお引き合わせすることもございますけど、制限してしまうとなかなか登録者が集まらないことにもなってきますので、広く受入れをさせていただいて、その中でも町内の方が御縁があればいいですねっていうところで、四万十町役場ともお話をし、こういう形の18歳以上独身の方で町内外問わずどなたでも登録が可能ですかという形をとらせていただいてます。必要な書類とかこの辺は説明は省かせていただきますが、基本的に毎週金曜日、当センターを開設するとさせていただいてますけど、平日の金曜日にこの時間に来れる人ってなかなかいらっしゃいませんので、私も土日であろうが、朝であろうが夜であろうが、対応させていただいております。

特に今、問合せをオンラインとかでさせていただくことが多いですけども、やはり時間ですと夜の7時半とか8時ぐらいスタートとかっていう方々もいらっしゃいますし、お引き合わせ 자체も、夜7時スタートとかっていうこともありますので、そういう場合も当然私のほうで対応させていただいてます。これを行政がやるとそんな時間でもちろん出来ませんので、そういうところでいうと、民間がやらせていただいているメリットなのかなというところに感じております。スタッフにつきまして通常2名体制で運営をしております。

7ページ目で流れを御紹介させていただきたいと思っております。まず相談ということで、登録したいんだけどというような相談を受けて、その後登録をいただくようになります。登録につきましては町も予算がないので、県みたいにシステムに入力してみたいな費用というのは、なかなか難しいところもあります。昔は紙に書いてもらって署名していただいてという形にしてましたけども、今年の9月から電子申請の手続もできるようになりました。独身証明書とか運転免許証とかといったところは添付していかないといけないというところではありますけども、そのままスマホとかから入力していただいて、前よりもスムーズに登録ができる形のサービスができるようになっております。登録いただ

いて面談させていただいて、確かに登録して間違いないとか、私どものルールにつきまして御説明をさせていただく中で、登録者の方に、分かりました、それで問題ありませんという確認をとった後に登録をさせていただきます。登録いただいた方につきましてお相手探しということで、当会員であったり、また私ども4月から高知県の高知で恋しよ！！マッチング会員様との相互マッチングということで、後で御説明をさせていただきますけども、会員さんとのお引き合わせもさせていただく取組もさせていただきました。またこれも後で御説明しますけども、この後、同じ井上さんが来られると思うんですけど、そこのツーピースさんとか、ほかの結婚相談所さんとも連携をさせていただくような形をとるように、11月1日からスタートすることになります。自分たちの会員だけではなかなかマッチングって難しい部分を結婚相談所さんとか高知県さんとかと連携することによって双方でも様々なメリットがあるのかなとは思っておりますけども、そういったところで、よい御縁はつくっていけると考えておりますけど、そういったところも含めてのお相手探しっていうのが3つ目です。

それからお引き合わせということで実際、直接カフェとかに行ってお会いすることもありますし、今オンラインで移住婚の取組とかさせていただいてます。やっぱりコロナ以降、ほかにもありますけどもZoomとかが発達してきましたので、そういったところでお引き合わせすることも増えてまいりました。あとは連絡先交換、交際という流れになっております。その途中で伴走支援であったりとか、イベントであったりとか、様々な事業とかも実際やっております。

続きまして8ページ目ですけども、やはり具体的に会員は何人いるんですかというところですけども。現在、男性36名、女性23名の合計59名というふうになっております。今年度は、てとてとを運営し始めて8月末で丸2年になっておりますけども、その関係もありまして、当センターの会員が2年間ということで。2年後の更新されますか、されませんかっていう御質問を今させていただいているところなので、この辺の数字が非常に流動的にはなっております。資料をつくった今の時点でも、現在59名というところになっております。9割ぐらいの方はもう更新をされて、ある意味残念なところではあるんですけど、できれば2年の間にお相手を見つけてもらって退会っていうのがベストだと思うんですけども、更新は逆にそういう活動について、賛同いただいている方が継続していただいたのかなとは思っておりますけども、現在59名になっております。右のほうに住所+性別と書いております。見ていただいたように結構、町内よりも、町外、県外の方の登録者、特に県外移住婚の登録者であったりとか四万十町に住んでたけど、県外に移住された方とかでも引き続き登録が残っていらっしゃる方とかもいらっしゃるので、県外はこの数になっております。それから年代+性別というところですけども、こちらのほうは男性と女性のそれぞれの内訳となっております。20代30代が合計足しても30名ぐらいになりますので、約半

分ぐらいが実際に20、30代の方が登録をされているというような状況ではあります。

続きまして9ページ目になります。こちらのほうから少し移住婚という取組。これ高知県でいうと私どもしか今のところやっておりませんし、四国で言っても、私どもと徳島県の1町。それから中国地方はやっておりませんので、中国四国地方だけでも、2か所しかやってないような状況です。

移住婚とはそもそも何かというと、移住を考えてる人と結婚を考えてる人、その両方をかなえたいっていう方が、実際に登録をされている方です。そもそも私どもは、移住婚に取り組みたいと考えていて、結婚相談所を設立するに当たって、長野県の駒ヶ根市の結婚相談所の所長をされてた方にアドバイザーをお願いした経緯がありました。

長野県駒ヶ根市は、移住婚を以前からやられておりましたので、そういったお話を聞いてました。そういうところの取組というのを私どもでもやってみようと。ただやっぱりスタートしてからすぐにはなかなか難しいという部分もありましたので、半年たった昨年4月から運営をさせていただいております。

移住婚ってどんな取組なのかというところで、10ページ目に婚活支援協会さんが主催でやってるのが移住婚ですけども。こちらのほうで、書いてある資料を付けさせていただいておりますけども、なかなか都会のほうで結婚相手が見つからない。実は東京は、唯一、男女の比率が逆になってるところです。何の男女の比率かというと、結婚相談所とかに登録されてる方って男性のほうが圧倒的に多いんです。これは田舎に行けば行くほどその割合が高くなる。ただ、逆転して女性のほうが希望者が多いというのが東京のようです。ですので、そういうところの移住をして自然で生活したいっていう方が、こっちに来ていただけるような取組っていうのが、逆にこっちの男性が多いところとニーズがマッチングしていくというメリットもあるというところのお話を聞いて取り組んでいます。実際、お申込みを見ても8割が女性です。うちの流れとしましては、各結婚希望者の方が、この協会さんに登録をしますと、そこの登録した窓口でどんな市町村に登録されますかっていうことを聞いて、その中で、去年までは5市町村しか選べなかつたんですけど、今年から、どの市町村でも何個選んでもいいですよっていう形になってるんですが、その中で選んでくれた方が、四十町を希望しますっていうことで、この協会さんのほうから、私どもに連絡があるんです。続いて、やりとりする中で私どもの登録をしてくれるかどうかっていう流れになっていますので2段階なんです。なので、その1段階目の四十町にちょっと登録してみようという方が、現在52人いらっしゃるような状況になっております。現在、もう少し数字は増えておりますけども、約1年半ぐらいでそういう方々が四十町に興味がある。その中から、10何人ぐらい、また、四十町のてとてとに実際登録をしていただいている形になります。

11ページ目のほう、御説明させていただきますけども。データで見る移住と結婚という

ところで、東京圏に住んでる方で、地方で暮らしたいと関心を持ってるのが約半分ぐらいいらっしゃると。さらに次の真ん中になると、コロナ以降に結婚の関心が高まった20代も約4割ぐらい。そしてコロナ禍で結婚の関心が高まった30代が30%ということで、一定そのコロナ以降で、結婚という関心も高まっているというような現状も出てきてると。そういったところで移住婚というところが非常にマッチしていってるんじゃないかなと思いますし、取組として実際1年半やってみて、先ほど見ていただいて県外で18人登録者がいるというところになってますので、これだけ県外が増えたということはやはり移住、そして結婚というところの関心が非常に高いのではないかと。特にこの高知県四万十町でさえその数字なので、恐らく高知県内でやると、非常に数字が増えてくるんじゃないかなと思っております。

続きまして12ページ目のこちらも、移住婚の説明でありますけども、協会さんと四万十町、ほかの自治体も含めて連携するという形の資料になっております。

それから13ページ目、こちらがほかの受入れ自治体の御案内ということで、先ほど御説明させていただいた、県内でもこういうふうな形で、登録がまだまだ少ないというような状況にはなっております。

続きまして14ページ目、少しお話がかぶってきますけども、実際どういった状況になるのかというところです。5月22日の時点での登録者数で、その中でも、先ほど言いました移住婚の第1段階の登録者が36名と、その後、私どもの登録の会員数というのが36名のうち5名まで登録をしてくださってたという状況です。なかなか登録まで行くのはすごく難しいなと考えていたところ、四万十町が移住婚ツアーっていうのをやりましょうということで御提案をいただいて、移住婚ツアーというのをやりました。これ何かというと1泊2日で県外から移住と結婚したいっていう方に来ていただいて、四万十町の男性と県外の女性をマッチングさせましょうっていうイベントです。

15ページ、こちらがツアーの資料になりますけども、四万十町に来て泊まっていただいて、翌日四万十川でラフティングをやっていただいて、誰がいいですかっていうことを書いていただいて、それでマッチングして終わりっていう感じで。来ていただくのに時間がかかるので。本当に物すごく短い滞在時間にはなったんですけども。お申込みいただいた女性は12名でしたけども、実際来ていただいたのは10名。これはどうしても体調不良ということで、お2人欠席になったんですけども、実際には10名の方が、東京、千葉、神奈川、大阪のほうから来ていただきました。

16ページになります。9月末の時点で、約1年半で先ほど36名であったところが52名まで増えて、さらにてとてとの会員登録者というのも18名まで増えております。先ほど10人来ていただいたと言いましたけど、10人来ていただいたうちの8人が、私どものてとてとに登録をいただきましたので、それで一気に増えたというような状況にあります。アンケ

一トを行いましたけども、四万十町に住んでみたいと思ったというのが75%ということで、結構好評いただいたのかなと思います。質問したときに高知に来たことがありますっていう人が半分以下でしたし、もちろん四万十町はいらっしゃらなかつた。そんな状況で、やはりその結婚だけじゃなくて移住の関心にもつながったのかなと思います。移住と結婚どっちが興味がありますかっていう御質問をさせていただいたんですけども、割合は半分半分。どっちかいうと移住です、どっちかいうと結婚ですっていう方が大体半分ずつの回答でありましたので、それぞれがやっぱり移住に興味があつたり、結婚に興味があつたりそれぞれなのかなというふうにも考えてます。ですので、そういったところで考えると、やはり移住と結婚って、移住は移住で事業として取り組んでる部分もありますけど、結婚というのをプラスすることによって新たなニーズも生まれるのかなと思ってますので、ぜひ移住婚についても、高知県でも御検討いただきたいなという事業になっております。

続きまして17ページ目になります。こちらのほうが相互マッチング。先ほどお話をさせていただいたように、高知県とか結婚相談所との連携というところを取り組んでおります。

18ページ目のほうに、新たな取組として新しい出会いの創出ということで、やはり四万十町だけでいろんな取組をしてもなかなか広がりが難しいんじゃないかなっていうのをちょっと考えておりまして、ほかの市町村で取組をしているところとの連携というのを新しく始めました。こちらのほうが安芸市、それから四万十市との連携になっています。なぜこの2市なのかというと、県下で婚活を熱心に取り組んでいるベストスリーが、四万十町、安芸市、四万十市なんです。もうほぼここしかやれてないと。怒られるかもしれませんけど、やれているところが少ないっていうところで、代表トップスリーっていうとここの3つになつてます。やはり僕も役場職員としていたのであれですけど、なかなかマンパワーを出せる、お金を出せるとか、なかなか難しいのではないかなというところはありますけども。この3つが県内でも、熱心に取り組んで、非常に連携をしながらやってる。いろんなところのそれぞれのやり方を学ぶ事もありますし、例えば四万十市だったら四万十市だけでイベントしてたけど、じゃ、四万十市じゃないところ高知市とかでやつたらどうなのかみたいなところもいろいろ検証しながら、新しい会員とか新しい出会いを創造できるんじやないかという新しい取組をスタートしております。安芸市との合同イベント、こちらの参加者は男性9名、女性9名でやりましたけども、4組マッチングということで、うち1組はもう既にお付き合いを始めたという方もいらっしゃるというような状況も聞いております。

それから19ページ目が、新しい出会いの創出ということで、こちらは高知県の補助金を活用させていただいている事業です。先ほど言いました、例えば障害者の方とかが、なかなか出会いがないとか、ふだんイベントをやらないような人とかも、やっぱりイベントというのを出させていただくことが必要なのかなというふうに思つてます。今度シニア婚っていうんですけど、50代以上の方々が、僕も50歳なのでもうここに入つてくるんですけど

も、いわゆる50代60代のうちの会員が、イベントやってくれませんかっていう話があったんですが、確かに僕ら30代とか20代のイベントしかやってないなと思って。やっぱりこれはちょっと必要なかなと思って、やり始めた当日に20人ぐらい一気に男性の申込みが入ったんです。やっぱりこの年代の方々は、出会い、イベントとかがないのかなあと思って。やはり今度はシニア婚、それからシングルマザー、ファーザーの向けの方のイベント。今後、例えば障害者と障害者のサポートをしたいっていう方もいらっしゃるかもしれません。そういうところを、県とか社協とか、いろんな障害を持たれた方のサポートされてる事業所とも連携しながら、そういう取組も出来ないかなと。やはりいろんなイベントとかにも参加するのが難しい人についても幸せになっていただく権利はございますので、ぜひそういうところで皆さんのがやられてない、そういうところで手が届かない事業というのは、私たちもできる部分があるかなと思ってますので、一人一人の声に丁寧に答えていきながら、いろんなイベントも進めていければなとは思っております。

続きまして20ページ目。最後ですけども、現在の課題というところで少しお話をさせていただきたいなと思っています。会員の増加、マッチング数を上げるという部分でいうとやはり会員を増やしていく必要があるかなと思ってますし、四万十町の事業ですので、その町内の会員を増やしていくかといけないというところもあります。女性会員がまだまだ少ないというところもありますので、こちらのほうの会員を増やしていくかといけないかなとは思っております。あとはマッチング率、成婚率のアップも課題です。現在、2年やってきて成婚されてる方は今のところ1組というような状態です。お付き合いされてる方は6、7名ぐらい今いらっしゃいますけども、その方々が成婚というところはまだこれからなのかなと思ってます。ただ、ここにも書かせていただいてますけど、ゼクシィ結婚トレンド調査2023の付き合い始めて結婚するまでの期間というのは、3.4年間とかっていう数字がありますので、そもそもまだ2年しかたってないのに、平均考えると、まだ結婚するのもっていうところにもなってきます。なので、県議会だけではなくて、ほかの自治体の議会もそうですけど、結構いろんなところでも、その数値とか費用対効果を求められると思いますけど、一定その1年で数字として答えが出るものではない。それで考えると一定この年数は最低でもかかると。これでいうと付き合い始めてからですので、付き合うまでそもそも1日なわけでもない。最初に会った人のその瞬間にその人と1回目で会って、1回目でオーケーもらって、1回目で連絡先を交換して、1回目でお付き合いして結婚するのでも3年ぐらいかかるんです。皆さん、御結婚されてる方とか、イメージしてもらいたいんですけど。結婚された方ってそんな話で結婚しましたって、多分みんなそうじゃないじゃないですか。それ考えるとどうしても期間がかかるというところはやっぱり御理解いただけると非常にありがたいかなって思うので、そういうところを含めると、やはり4年、5年、6年とかっていう長い。さらに最初に入った人がそれだから、途中で

入った人はまだこれからどんどん伸びてくるので、そういうところも含めて、イメージをちょっと意識していただきながら進めていただくと。よりここに時間かかったりとか、いろいろ課題というのも多いというところも御理解いただきながら、当然私どもがしっかりやらないといけない部分ではございますけども、人の心の問題でもございますので。じゃ、早く結婚しろよみたいなことを私どもが言うわけにはいきませんし、そういうところの難しさというのが非常にあるのかなとは思ってます。そういうところも含めて私どもができる取組っていうのは、精いっぱいさせていただきながら、今後も進めていきたいと思ってます。私どもも一生懸命やっていきますけども、議員の皆様をはじめ、ぜひお声かけとか、それからこういったところの賛同いただいたりとか、高知県の取組について応援いただくことが、私どもを応援いただくことにもつながってまいりますので、ぜひぜひ何か皆さんの御要望とともに含めて、私どものできること、できる範囲で、精いっぱい頑張っていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

◎上治委員長 それでは、委員の皆様方からお聞きしたいことがございましたら、どうぞ。

◎畠中委員 御説明ありがとうございました。この登録するときに、まず自分の情報を入れると思うんですけども、相手の方に求めることとかっていうのも、入れるところあると思うんですけども。大体どういったところまでこう入っていくものなのかなっていうのをちょっと教えてほしいと思います。

◎井上代表理事 委員おっしゃるように登録いただく用に御本人の情報と、それから、お相手の希望の情報というのがございます。それこそ男女ともに言えること特に男性に多いところがあるんですけども、やはり自分よりまず若い人。さらに言うと、男性でいうと結構御年配の方々とかになるとなおさらんですけど、子供が欲しいっていうので、御登録いただいたてる方とかもいらっしゃいます。あとはやっぱり女性でいうと、年収とか、あとは結婚の有無とか。結婚されて、ちょっと1回駄目になった方は嫌だとか。そういう御要望とかも聞かせていただきますけども、結構ベストファイブ的に言うと、まずは年齢とか年収、あとはたばこを吸う吸わないとかみたいなところとかが結構上位に入ってきたりします。そういうところで選ばれる方とかも少なくない。あと女性からいうと無職かどうかとか。実際、無職の方とかもいらっしゃったりとかもするので。ギャンブルしない方なのかとかはちょっと聞かれます。一番多いのは、冒頭言いましたやっぱり年齢というところの割合が非常に多いかなとは思ってます。どうしてもそのマッチングとかでお引き合せにならないことが結構多いんですけども、いわゆる、こっちがイエスって言うても相手がイエスと言わないとお引き合せにならないので。それで、圧倒的に断る割合が多いのが、やっぱり年齢が違過ぎる。どうしても男性は若い人がいい。やっぱり自分がそこら辺ちょっと何かこう、一緒に勉強させていただきたいなと思うんですけど。逆に自分が10個上の女性から言われたときに断りますか。断りませんよね。自分が言ってるんだから

て言ったら、ううんって言うんですよね。自分は若いほうがいいのに、自分が上から言われると嫌だみたいなところって、結構皆さん、言われることが多いかなっていうふうな感じがありますね。

◎畠中委員 よく最近周りで聞くのは、携帯でマッチングアプリ。やったことないんで分かんないですけど。登録とかしてるのが入っていくと、結構もうばっちり合うというか。すごい掘り下げて、その細かいところまで行ってると思うんですけども。そこまであんまりこう掘り下げてやっていいものなのかどうか。ちょっと教えていただきたいなと思って。

◎井上代表理事 そうですね、人によったりもするんですけど。私どももある程度、何ていうかな、マッチングアプリのいい部分とデメリットみたいなところもあって。やっぱりマッチングアプリ、会ってみたら全然写真と違うやんみたいなこととかあったりとか。いろんなところでも課題があったり。あとはSNSみたいに「いいね」みたいなことも押さないといけないとか、いろいろあったりするみたいななんです。僕もそれこそやったことないんでありますけども。そういうところもあったりもして、ちょっと疲れてる人がいるとか。ちょっとこう不信感があるみたいな方が、私どもに登録してくださる方も少なくないです。やっぱり公共がやってる安心感みたいなところもあったりもするのかなというところはあるんですけども。私どもも、いろんなことを聞いて深く掘り下げていく部分はもちろんあるので、そういったところで言うとあれですけども。そこら辺はアプリと最も違うのは、直接会員の人間同士の会話から成立するので、私たちがお引き合わせをするときに、なるだけヒアリングさせていただいて丁寧に、こういうところは僕が思ったらこういうふうにすごくいいところがあるんですよっていうのは、アプリは言ってくれないじゃないですか。それは僕らだからこそ伝えられることがある。そういったところを含めて、逆に丁寧に深掘りさせていただくところはあります。

◎寺内委員 最後の部分で言われた、どうしても行政のほうの事業については、議会としてはKPIを求めるところがあって、1つすごく参考になりました。いろんな取組の中で時間もかかるということは一定理解出来ました。先ほど、高知県内で3自治体、四万十町、四万十市、安芸市がトップスリーということで、具体的にマッチングイベントをして、どのようなことをずっと行政間をまたいでやってきたか、ちょっと参考に教えてくれませんか。

◎井上代表理事 ベストスリーとは言いましたけど、僕らも取り組み始めたのはまださっき言った2年半ぐらいの状況なので。それでも年数少ないので、ほかがやってないのでトップスリーに入れるんですよね。いろんな事業、数こなしてきたかって言われたらそうでもないところではあります。

お答えになってるかあれですけど、参考に安芸市はどんな形をやってるのかというと、安芸市はイベントに特化されます。イベントをやって私どもがやってるようなお引き合

わせみたいなことをやってない。イベントを中心にやってるっていうのが安芸市。一方、四万十市は、私どもと同じようにN P Oが受付業務委託をやってるというところで、イベントもやってるし、お引き合わせもやってるような取組をされております。四万十市がうちと違うところでいうと、私どもは私どもがお引き合わせしてますけども、四万十市はサポーターがお引き合わせのお手伝いをされています。そういったところが違うところ。そちらのほうとも11月に、四万十市と私どものほうでお引き合わせをスタートさせるんですけども、形ではちょっと大きくいうとそんな取組をしている。

うちだけじゃないんですけども、いろんなところが予算が非常に厳しくなってて、四万十町も昨年からいうと、非常に大きく予算を削りますということで、もうイベントとかも、相当数が減るような予算になったというような状況になってますので、今後も四万十町、結構厳しい状況にはなってきています。今回、町長選がありますので、そういったところもあって、ちょっと来年の状況が見えにくい部分もあるんですけども。やっぱりそういったところで、早めに判断されて予算を削られていくと、さっきお話ししたとおりで、成果が1年で出るのか厳しい状況で削られていくとなかなかやりようがないっていうところもあるなというところは、実際あるかなと。お答えにならないんですが。

◎寺内委員 それと、今やっぱり独身者が多いのは人口も多い高知市だと思うんですけども、今の説明を受けるとL I F Eさん自体に高知市の男性であろうが女性であろうが登録をして、加入は可能だと思うんですけども。高知市なんかの方にL I F Eさんの活動なんかは、いろいろとあんまり周知されてないように私は感じたんですけど、その点はどんな感じでしょうか。

◎井上代表理事 確かにおっしゃるとおりでまだまだ周知不足な部分がございます。ただ、その辺に物すごく注力する部分もちょっと逆に難しいところもあって。ただ、今イベントは高知市でほぼやっています。幾つか理由があるんですけども。大きく2つ理由があって、1つは、やっぱり田舎って自分とこの地域でやると、みんな恥ずかしがって参加しないっていうところがあります。それと、人口の統計的なことを考えても四万十町に若い人が少ないんです。もう四万十町でいうと、高校から町外に行くんですね。地元の窪川高校、四万十高校に残らなくて。須崎市に行ったりとか、高知市内に出てくる。もうその瞬間からどんどんどんどん人が流れてって、それで向こうで就職決まってこっちに戻らない。そういう状態が続くので、結局若い人が少ない。さらに、町内でやっても、参加するのが恥ずかしい、知ってる人に見られたら嫌だ、みたいな感じになる。今はもう高知市でさせてもらってますので、それこそ県がやってる、高知で恋しよ！！マッチングとか、イベントのホームページとか、メーリングリストのほうでは流させていただいてますので、結構参加していただく。私どもが主催するイベントとかは高知市内の参加者も結構参加してくれます。ただ、会員として登録する高知市の方へはやっぱりまだまだ周知は出来てない部分で

はあります。

◎寺内委員 あと1点。LIFEさんの分で、会員数の増加ということで、いろんなマッチング分を登録されるとと思うんですけど。高知県は若者が、県外にどうしても出ていっていますので、そのときに東京方面の関東県人会がある。それから、関西には京都もあり、大阪の県人会があって。基礎自治体であれば、女性なんかをお呼びするときに、マッチングという形でこの県人会を活用するという自治体はあると聞いてるんですけども。そういう中で言ったときに、LIFEさんの活動を県人会のほうに情報を提供して、県人会の方の力を借りて会員を増やすとかいうことはあまり考えられないでしょうか。

◎井上代表理事 もし、お構いなかつたらぜひ取組とか。特にその今の高知県でいうと、高知県がやってる分と四万十町と四万十市しか会員登録が出来ないので、ぜひ各県人会のほうにもお声をかけていただきながら、登録していただく方を増やしていただきたいと思ってますし、今ちょっと委員からお話しitただく中で、少し思い出したことがあって。四万十町の移住担当の方ともお話をすると、その家族で移住をしてきましたと。で、子供が生まれると、どうしても奥さんのほうに再移住してしまう。やっぱり子供を見てもらいたいっていうところになってくるってところがあるので。どうしても移住してきてもまた離れてしまうことがある。それでいうと、Uターン女子っていうのがすごくいいなと思ってて、要はそっからもう移動しないじゃないですか。地元でお母さんに面倒見ていただく。なので、1つのポイントとしてUターン女子っていう、何か名前作って、高知へのUターン女子募集みたいな感じで、事業やるのも1つ何か手なのかなというふうには考えてます。どういう形で進めていくかちょっとあれですけど、高知県的にやっていただくと非常にあれかなと思うので。移住婚の中でも特に高知に帰っててくれる女性の方が増えていただくと、さらに人口は減っていかないポイントにもなるかなと思いますし、男性の移住婚の方もいらっしゃるので。先ほど言いましたように高知県、いわゆる東京以外は、男性の婚活者が多いので、ぜひ女性に帰って来ていただければいいかなと思うので、そこら辺ちょっと。子育ての問題とか住宅の問題とか、お仕事の問題とかも関連してくるとは思うんですけども、そういったところも含めて、御検討いただけたらなど。

◎今城委員 県の移住婚の取組って、どういう段階ながです。

◎池子育て支援課長 まさに移住婚っていう見方は、今ほとんど県レベルでは出来てない状況です。先ほどもありましたけども、全国の婚活協会の組織に入ってるっていう県も少ないので、逆に言えば今お話も聞いてチャンスかなというふうに考えておりまして。来年度に向けて、強化の方向性としてちょっと考えてみたいなと考えております。

◎今城委員 もう1点、市町村の温度差ですよね。私宿毛なんんですけど、宿毛の名前がないんですよね。やっぱり好事例の横展開ですよね。その辺り、県のほうはどうですか。こういう四万十町なんかの事例をどう横展開してるので。

◎池子育て支援課長　好事例もちろんありますので、勉強会を市町村担当者向けに恒例的にやっておりまして。そういう形で今横展開を加えておりますが、担い手がなかなかいないという問題もありますんで、その辺も含めて広域的に連携が出来ないかも含めて、アドバイスもさせていただきたいなと考えております。

◎上治委員長　そしたら、時間もほぼ参りましたので、これで終了したいと思いますが、よろしいですかね。これで意見聴取を終了いたします。

委員会を代表いたしまして、一言お礼を申し上げます。

本日は本当にお忙しい中、当委員会に御出席をいただきまして、ありがとうございました。

今回、お聞きしました御説明、御意見の中で、特に先ほど出ました移住婚であるとか、Uターン女子も新しい言葉でありますけど、どういうふうにやっていったらいいか私たちこの特別委員会も様々な角度から勉強しながら、執行部のほうに言いながら、少しでも一生懸命頑張ってやっていきますので、またこれからも御指導願えたらありがたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

以上をもって、特定非営利活動法人LIFE代表理事井上義之氏からの意見聴取を終了いたします。ありがとうございました。

それでは次へ行く間、5分間一度休憩をとります。

(休憩　15：25～15：30)

◎上治委員長　それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

次に、こうち結婚推進協会からお話を伺います。

会長であられます井上陽平氏におかれましては、結婚相談所ツーピースを運営されるだけではなく、県内の結婚相談所有志が集まりました任意団体、こうち結婚推進協会を設立されまして、結婚相談所の会員が安心して婚活を行えること、県内でより多くの御成婚カップルを輩出することを目的として活動を行われるなど、本県の出会いや結婚の活性化に御尽力をいただいております。

本日は、御多用のところ、当委員会へ御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、こうち結婚推進協会の取組を中心に御説明を受けました後、意見交換をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

私ども委員の紹介をさせていただきます。

(委員紹介)

◎上治委員長　それでは、早速ではございますが、御説明をよろしくお願ひいたします。

◎井上会長 私先ほど御紹介にあずかりました、こうち結婚推進協会会長、そして結婚相談所ツーピースという相談所を運営しております井上と申します。よろしくお願ひいたします。今回の資料なんですけども、私の拙いパワーポイントスキルで作成したものでちょっと分かりにくいくらいもあるかと思いますけども、その分いろいろと御質問をぶつけていただければと思いますのでよろしくお願ひいたします。今回のタイトルなんですけども、「官民一体型婚活支援の成果とこれから」という資料を作成してまいりました。

まず、ちょっと私の簡単な自己紹介と結婚相談所についての概要を御説明さしあげます。私、井上陽平と申しまして、高知県高知市生まれで39歳です。妻がおりまして子供が1人おります。結婚相談所ツーピースを経営しております、2020年の4月に開業いたしました。そして、結婚相談所連盟IBJ、BIU加盟と書いておりますけども、これがどういうことかといいますと、今の結婚相談所っていうのは、自社の会員だけでお見合いを組むシステムではなくなっています。IBJという大きな結婚相談所連盟があるんですけども。例えば、そのIBJの中には、全国約4,500社ぐらいの結婚相談所が、そのIBJの中に集まっています。その4,500社の結婚相談所の会員数を全部合わせると、大体全国で10万人ぐらいになってるんですけども、そのような大きなプラットフォームの中から、お相手探しができるようなシステムになっていますので、そういう我々結婚相談所連盟IBJ、BIUその2つに加盟しているので、高知だけじゃなく、全国からお相手を探すことができるようなシステムになっております。そして現在の自社のツーピースの会員数だけでいうと、大体50名ぐらいになってきました。今まで累積成婚数が約30名というところと、今年はもう10名以上成婚が出ておりまして、昨日、おとといと、2組成婚が出ました。今年、累積成婚数は11名というところになりました。相談所の中でいうと、結構成婚数が多いほうかなと思います。そして最後のほうに、現在、こうち結婚推進協会会長という役職を務めておりますという説明資料です。そして、こうち結婚推進協会とはと書いてますけども、先ほど委員長からも御説明がありましたのでここは省略します。

次です。1年前にこうち結婚推進協会ですごく大きなトピックがありました。官民一体型婚活支援の開始というところなんですけども、丸のポチが3つあります、一番上のところが、一番大きなトピックになります。高知県が運営している高知で恋しょ！！という県営の結婚相談所サービスがありますけども、そちらと、我々民間相談所のほうでのお見合いが組めるようになりました。そういうところで、高知県内のお見合い活性化が、提携により実現されたところが、この1年前になります。

そこからほかにも提携していることでいいと、高知で恋しょ！！の会員に向けて、我々、民間の仲人が、婚活のお役立ちメルマガみたいなものを、月1回リリースさせてもらっています。そういうところで、婚活のノウハウ、イロハみたいなところを学んでいただくような形をつくっております。

それともう1つ、大体3か月ぐらい前にスタートしたんですけども。高知で恋しよ！！会員のプロフィールの添削を、我々民間相談所の仲人が添削しますっていうサービスもスタートしました。これは、高知で恋しよ！！の会員は、どうしてもPR文とかプロフィールが自作になってしまって、誰かの目を通してるわけではないから、こういう書き方やめたほうがいいよ、異性から見たときにこれはちょっとバッドポイントになるよっていうところを普通に書いてる人たちが結構多かったんです。それでお見合いが全然組めないみたいなことがあるので、そういうことがないように、プロの仲人が、プロフィールを添削して、相手に魅力的な方々を、この中で増やしていくということをするようになりました。それが7月にスタートした試みになります。

そして、官民一体型婚活支援の成果と課題というところなんですけども、お見合い数は想定どおりに組めています。お見合い自体、うちだけで言っても、毎月お見合いをさせていただいてますし、お見合い数、お見合いの活発化っていうところには、大いに寄与している部分はあると思います。しかし、赤文字にさせていただいた、交際数、成婚数は、我々民間相談所がもともと立てていた想定ではありますけども、想定を下回っています。ぶっちゃけて言うと、成婚数はこの提携後1年間でゼロでございます。これは大変恥ずかしいお話ですけども、この場なので正直にお話をさせていただきなければいけないところであります。なので、成婚数というのは、この高知で恋しよ！！の会員と民間相談所の会員とお見合いを組んだ成婚数はこの1年ではゼロです。その原因はどういうところにあるのかなというところを我々考えてまして、複数いろんな原因があると思います。我々の至らない部分も大いにあるとは思うんですけども、1つ我々とすると、ここがちょっと大きな原因なんじゃないかなっていう部分が、高知で恋しよ！！には仮交際がないっていうところ。そこを我々、1つ原因として挙げさせていただいてます。

次の仮交際とはというところがあるんですけども、この仮交際、何ぞやということだと思います。皆さん聞きなれない言葉で、交際なのに仮っていう、どういうことなんだろうと思われると思うんですけど。この仮交際っていうのは、全国の結婚相談所の一連の共通のルールとして認められているもので、どういうことかといいますと、複数の人と同時に交際オーケー期間なんです。若干の語弊があつてしまってあれですけど。大変分かりやすく申し上げますと、仮交際っていうのは、二股、三股オーケー期間みたいな感じのところです。仮交際は、お友達期間なので2人、3人と同時に交際して構わないよっていう期間なんですけども。それが、高知で恋しよ！！にはありません。民間相談所には、全国共通で仮交際というものがあります。これが、恋人ではなくお友達期間のイメージって書いているのと、あと民間相談所では、仮交際期間が全社共通ルールとして認められていますっていうところ。そして、ここの仮交際がないっていうことで、なぜ、成婚が生まれにくくなるのかっていうところなんですけども。この仮交際期間がないと、気軽に交際をオーケー

しにくくなります。ちょっと違うかなあと思うけど、それでももう1回お茶行くぐらいならいいかなっていうので、交際につながるケースって民間相談所ではあります。それは、仮交際があるから。けど、一方で、高知で恋しよ！！のほうは、この人とお見合いして、それで交際を希望します、お相手も交際を希望しましたということになると、イコールほぼほぼ彼氏彼女みたいな感じの関係になるので、簡単にオーケーしにくくなる部分があるんですよね。我々すごくそれを、この高知で恋しよ！！と組むときに感じています。例えば弊社の女性会員であって、民間相談所での活動内においては、もうほぼお見合いしたら断られることがないような女性、明るくてすごくおきれいで、すごくお仕事も頑張らてる女性がいらっしゃるんですけど。その方とかでも、高知で恋しよ！！とお見合いを組んだとき、割と断られるんです。交際はちょっとごめんなさいと。お見合いしてバツで帰ってくる可能性というのが結構高いように感じます。それがなぜかっていうと、仮交際がないから、気軽にオーケーって相手からもらえなくなる。そういうところで交際につながっていきにくいくらいっていう感覚を、我々正直言うと抱いています。その仮交際に行かないっていうところが成婚につながっていないところなんじゃないかなって感じています。この仮交際っていうルールを、ぜひ高知で恋しよ！！にも導入をしていただきたいなというところを我々感じておりますし、同時期に複数人の方との相性を確かめられるため、早期成婚につながっていきます。1人だけしか交際が出来ないよりも、同時に進行していくことで、少しでも成婚に早く近づくことが出来ます。それがあることによって、早期成婚を目指せることができる。そしてさらに、そこから派生していくと、子供に恵まれる可能性だって高まるところもあると思います。35歳で成婚できる方が、例えば、仮交際がないがゆえに、37歳、38歳になって成婚したってなって、子供に恵まれなかつたというケースも、ひょっとしたらあると思うんです。そういうところも、早期に成婚まで近づくっていう意味でも、仮交際を導入するメリットは大きいにあると思います。

そして、ほかにもこの婚活をしていく中で、会員のモチベーションというか、メンタルというか、そこの管理が非常に難しいところではあるんですけども。どういうときに一番会員のモチベーションが下がるかっていうと、お見合いもなくなって交際もなくなって、振出しに戻ったみたいな状態。つまり交際をしてたけどその人と駄目になって、また振出しに戻ったというような状態が、休む、やめるという選択肢が会員の頭に一番浮かぶときなんですけども。これが仮交際を導入することによって、1人の方と交際が終了しても、ほかの方と交際が続いているので、そこで婚活のモチベーションの低下というのを回避できる部分は大きいにあると思います。ほかにお見合い、デートの経験値ってのはためやすくなり成婚に近づくっていうところも書いてますけども。結論として、高知で恋しよ！！も仮交際システムを導入してみてはいかがでしょうかというところ。今日このような場でお話をさせていただける機会があるので、我々民間相談場所側の意見として、1つ挙げさ

せていただいたというところです。

それと、ほかにも、この今までの御縁つなぎの延長線上の話だけでは、抜本的な高知県の少子化、未婚化を救うことに、どこまで寄与できるかというところもあるので、今までの延長線上ではない部分での、御提案というのも1つ今日持ってきました。くしくも、先ほどの井上義之さんと同じような論点のところにはなるんですけども。次の資料は、「最近こんな問合せが増えています」というところを書いてるんですが。今は都会に住みゆうけど、高知の人と結婚して高知に帰りたい。こういう御要望をいただきて、弊社にご入会いただいている会員も複数人いらっしゃいます。その例として、左の似顔絵イラストが、30代高知女性と30代の東京男性、この東京の男性は高知出身なんです。この方本当に優秀で、ちょっと個人情報を言ってしまうとあれかもしれないんですけど、京都大学を出て京都大学の大学院も出て、そして東京の大手会社に就職して、そして今はリモートワークができるので、別に東京に住む必要ないと。もう高知が恋しいし、自然の中でゆっくりしたスローライフを送りたいみたいなところがあって、高知の人と結婚したいというお気持ちを持って、弊社に御入会いただき、そして、高知の女性と出会って御成婚されました。これが、先月のことです。9月に御成婚されて、今月、入籍をされました。そして、右の写真のカップルなんすけども、20代大阪女性、大阪と書いてますけども高知の出身の女性です。右の方が30代高知男性で。左の大坂女性なんすけども、この方も同様に10代20代の最初の頃とかに大阪に出てきたけども、この生活ももういいかなみたいな。私とともに須崎の出身やし、自然に囲まれた環境でもう1回過ごしたい。結婚してそういう環境で過ごしたいなと思われてる女性に御入会いただきました。見事、須崎の男性と御成婚をされる予定です。12月御成婚予定なので、完全に確定して決まったわけではないですが、今は、結婚を前提に交際されて、親御さんへの御挨拶とかも済まされてるので、ほぼ揺らぐことはないだろうというような交際フェーズまで進まれているカップルもいらっしゃいます。こういうような方々以外にも、同じように、高知の人と結婚して高知に帰りたいというような声って結構増えてきてます。

次の資料なんすけども、それで、私としては、この「高知の人と結婚せんかえプロジェクト（仮）」というものをやってみませんかというお話も今日ちょっとさせていただけたらなと思ってきました。概要なんすけども、移住促進策として婚活サポートを拡充するということで、高知県への移住で終わるのではない、高知に根差すっていう流れをつくりていけたらなと思ってます。

どういうことかといいますと、具体策としてこれも1例あります。完全にこうしてくださいではないけど1例として、高知県が運営している移住促進サイト、高知で暮らそうみたいなすごいきれいなホームページがあるんですけども、その内容というのは基本的に住まいや仕事のサポートとかあっせんというような内容がメインで、そこにさらに出会

いの項目をつけ足してみませんかっていうお話です。さらにこのサイト内には、移住婚成功者みたいな方のインタビューとかを載せて、婚活意欲の向上を図ったりであるとか、あと高知県のU I ターンサポートセンターが東京とか大阪にあると思うんですけども、そちらに相談に来た独身者の方に、当プロジェクトを紹介していただいたり出来ないかなというところを思ってます。

高知への移住者は御承知のとおりだと思いますけど、年々増えておりまして、去年は2,300人ぐらいの移住者がいたというニュースを見ました。約半数が20代の方だとニュースでは報道してました。恐らく推測ですけども、20代の方が半数ということであれば次が30代の方なんだろうなと思いますけども。そうなると、家族で来られる方もいらっしゃれば、独身で高知に来られている、移住されてる方も多くいらっしゃるはずなんです。その方々が高知に移住してきて、ここで根差してもらう。高知を住みかにしてもらうようなことが、県としても力を入れてやっていくべきことなんじやないかなと思っています。重複する部分はあると思いますが、この高知に住みたいと考える県外在住者の情報を得られるということで、我々も民間相談所としても、そういう、県外に住みながら、高知に住みたいと考えられてる独身者たちの情報を我々も知ることができることによって、自社の会員とかにも紹介出来たりとかということで、その御縁結びというのが活性化して、成婚数の増加が見込めるのではないかと思っています。

そして、御説明のとおりですが、U I ターン移住者というのは年々増加しているものの、この定住率、ここにとどまってくれるっていうところに課題があるというニュースも拝見したことがあります。やっぱりどうしてもすぐに移っちゃったりとか、なじめなかったりとかというようなこともあったりするみたいなので、移住サポートに結婚、婚活っていうものを組み合わせることで、高知への定住率っていうものを高められるんじゃないでしょうかというお話です。

それと最後のところ、このように今現在も、行政のほうと我々民間相談所グループが、これほど強力にタッグを組めてる都道府県は、高知県以外にはほぼないはずです。香川県がわりと力強くやっていますけど、高知ほどではないというところもあったりして。他県が何かこういうようなプロジェクト、高知で成功してるからうちでもやってみようみたいになつたときに、そういう協力を依頼するような相談所グループ、信頼が築けている、タッグが組めている相談所グループっていうのが、他県にはあまりないはずなので。そういう意味でも、この高知のオリジナリティーのある、模倣困難性の高い試みになりうるんじゃないかなと思っています。そういうところでも、ぜひ、この高知の人と結婚せんかえプロジェクト（仮）というものを、県とそして我々民間相談所グループと一緒にタッグを組んでやっていけることがないかというようなお話をございました。資料は拙いものでありましたけども、以上です。

◎上治委員長 委員の皆さん方、何かお聞きしたいことがございましたら、どうぞ。

◎下村委員 本当にすばらしい御提案ありがとうございました。これはもう県にストレートに聞かんといかんと思うがですけど、すばらしい提案やと思うんですけどどうします。やりますか。

◎池子育て支援課長 ぜひよい御提案やったと思うので、前向きに御検討させていただきます。

◎下村委員 やっぱり行政がやるにおいて、いろんな人と同時に付き合うのはみたいな批判も受ける部分もあるかと思うんですけど、実際、民間でそういうふうな感覚でやられて、そういうところはきちんと説明しながら、やっぱり行政としても、踏み込んでいくべき範囲のところは、ある一定やってもいいのかなあと思いながら。それから、この移住婚の話も先ほどの井上代表理事のお話のまんまで、やっぱり県が目指すべき姿であって、もうまさしく移住婚。高知に来て、高知で結婚して、高知で終わって生活してもらいたいっていう、一番理想の形の提案を、両方の方がしてくれたと思うんで、自分もやっぱりその方向で、全面的に進めるべきじゃないかなというふうに思いました。本当ありがとうございます。

◎今城委員 仮交際の間は何人も紹介をすることはできるんですか。

◎井上会長 そうですね。交際期間中はほかの方とのお見合いとか交際もオーケーなので、2～3人と同時進行しながら仮交際していくっていうのが一般的でありますけど。例えば、5人とか6人とか仮交際したりする方いらっしゃったりするんですけど。どの人とうまく進むか分からんからやっぱりいろんな人と交際を進めながらどの人にしようかなみたいなところ。やっぱり5～6人とかになると、どうしてもそのデートに割く時間であったりとか、日頃のLINEのやりとりであったりとかっていうのも、結構誰とどんな話したっけ、どこ行ったっけみたいなことになるので、あんまり今、5～6人は推奨してないです。基本的には、2～3人ぐらいは仮交際を同時にしながら、それで真剣交際っていうその一对一の交際フェーズがあるんですけども、そこに進んでいく人を探すっていうような感じになる。

◎今城委員 その縛りというものはまだないわけよね。だから、常識の範囲ということで。

◎井上会長 何人とかという縛りはないです。

◎今城委員 仮交際の期間というのは、限定されるとかそういうことはないですか。

◎井上会長 民間相談所の活動は、交際に期限が決められています。例えば女性会員が、男性Aさんと仮交際がスタートしましたとなったら、その仮交際がスタートして、半年以内には、その方と成婚するかどうか、決めなきゃいけないんです。なので、その半年以内であれば、例えば仮交際を5か月して、1か月真剣交際して、成婚っていうような進み方もできるし、3か月、3か月もできるし、そこの半年以内に成婚するかどうか決めるってい

う期限内であれば、別に何か月っていう仮交際の期間の縛りはないです。

◎今城委員 いいシステムになるように勉強した上で、改良のほうをよろしくお願ひします。

◎寺内委員 男女で言うたら、この仮交際を使うのは、私のイメージだと男性が大いに使うんじゃないかなと思うんですけど、男女の比率はどうですか、

◎井上会長 仮交際をしている率が男女でどうかっていうとこですね。基本的には、実は女性のほうが仮交際される人数が多いとは思います。男性って割ともう出会ってすぐに、好みとかパンって大体決まってるんで。あんまりいろんな人と同時に進行しながら、どの人にするか決めていくというよりは、男性はもう最初から大分決まってるみたいな人が多いです。逆に、女性はちょっとずつ気持ちが上がっていくので、最初の段階では女性ってどの人と相性があるのか分からないまま進めていく部分もあったりするから、最初の持ち駒は多くというか、そんな感じで、どの人と進めていこうみたいな感じを考える方が多いので、業務の実感上で言っても、女性のほうが多く仮交際をします。

◎寺内委員 あと1点。仮交際で女性は相手が多くいて男性のほうは1人だけとしたときに、男性のほうが、先ほど言われたそのモチベーション低下云々いうたら、女性の仮交際が多くなれば、落ち込みの方も増えるように感じて、それはないですか。その関係いうのは。

◎井上会長 もちろん仮交際を女性が多く持っていて、男性があなただけと1人だけで決めて交際してたけど振られたとなったら、その時、男性は傷ついてもちろんモチベーションが下がる部分が大いにあるんですけど。ただ、ここも全国統計とかで出てるわけでないので一概にあれですけども、いろんな相談所と話しても感じるのが、男性は簡単に休んだりやめたりしないんです。簡単に休む、やめるというのは、もう十中八九、女性です。そこの女性のモチベーションを低下させないようにしていくっていうのが、この婚活、成婚を生み出す上でも必要な考え方なんじゃないかなっていうところではあるので。男性は振られてもまた立ち上がる人が多いです。そんなに逃げない。

◎土居委員 人口が減っていっている中で、人口減少対策の柱が、結婚の希望をかなえる、出産の希望をかなえるというところが一丁目一番地である中で、民間の方々が官民一体型で非常に頑張ってくださってるということは大変ありがたいことだし、行政と民間それぞれ手法が違う中で、お互い歩み寄って、成果を上げていくということ一番大事だと思います。その辺は、先ほど今城委員もおっしゃったように県のほうも、ぜひやれる方向でいろいろ考えていっていただきたいと思いますので、そこをお願いしたいと思います。ただ今日彼が、この場でこういった提案をされてるわけですけど、日頃から、県と連携しているこの民間との間で意思の疎通、意見の交換がし合えるような、そういう関係づくりってのは必要だと思うんですけど。その辺、県のほうもどうなんですか。

◎池子育て支援課長 一応、日頃から担当者間等でやりとりをさせていただいておりまして、いろいろな御意見を実はお伺いをさせていただいておりますので、今後も引き続き密にしてまいりたいと思います。

◎今城委員 仮交際の情報として、の方は3人、私は4人とかそういう情報は提供されるんですか。

◎井上会長 基本的にはお相手が何人と仮交際しているというのは教えないです。なので自分1人かもしれないし、基本的にはほかの人もいるかもしれないというような状態で進めていくことになります。知ろうと思えば、他社の相談所とかであれば、そのお相手が、相談所間で連絡とて、何人ぐらいと仮交際してますかとかっていうところも聞くことはありますけど。あんまり何人ぐらい仮交際してるとかは基本的には知らないで進めいくような感じになります。

◎横山副委員長 先ほどの井上さんにもいろんな話を聞いてて、官民一体でやってるっていうのがすごい重要だということで。先ほどの井上さんは四万十町でしたけれども、四万十町は取組が進んでいる。だけど各市町村の温度差もあるってことなんんですけど。今、官民一体型をやってるのを、市町村とも連携していくっていうことにはまだならないわけですか。その点についてお聞かせください。

◎井上会長 現状、先ほどの井上義之さんの運営されてる「てとてと」という四万十町の婚活サービス。そことも、来月中に提携できるように弊社話を進めております。なのでそこでアッタリとか、あと四万十市のほうにも同じような御縁つなぎのサービスがあるらしいんで、そちらとも進めていって、より県内全体で、高知で恋しよ！！だけではなく、それぞれ、四万十市のほうとも、提携を進めて、高知の人と出会いたいという声をかなえられるようにしたいと。

◎横山副委員長 先ほど言われた、どうしてもマンパワー不足だとか、なかなか知見が小規模自治体においてはないということなんで、こういうときにやっぱり民間の皆さんの知見を各市町村に生かしていくっていうのは大変重要な取組だと思うんで、是非それ広げて、今城委員が言った横展開という意味も込めて、ぜひよろしくお願ひをしたいなと思います。

◎寺内委員 今、副委員長が言われた分、ぜひともそうしてくれるとありがたいんで、そのときに、あちらの四万十町は行政が入って、相談なんかもお金もかからないと。そしたら、井上さんところは逆に民間経営で一応お金がかかって会費とか取っていってますけども、そのときに、行政の分と民間の営利を考えた分とのマッチングは問題なくいけるような形になりますか。

◎井上会長 そうですね、その典型例で言うと、今高知で恋しよ！！と提携をして、高知で恋しよ！！の会員ともお見合いが組めるようになっているので、最初に、高知で恋しよ！！でも、民間相談所の会員とお見合いが組めるんだったら、誰も高いお金を払って民

間に入らないよねっていうような、そういうところの議論もありましたので、そこが侵害されない、民間の営利をそがないようなやり方で提携をしています。どういう形かっていうと、高知で恋しよ！！の会員は、民間相談所の会員を閲覧することが出来ないんです。言わば高知で恋しよ！！の会員は、待ちのスタンスだけ。自分にお見合いオファーがあつたら、民間相談所の会員と会えるけど、民間相談所の会員を自分が閲覧して、お見合いオファーを送るっていうのが出来ないんです。それが出来てしまうと誰も民間に入らなくなるので、民間のほうは、仲人が間に立って、例え使うこの会員に合いそうな異性が高知で恋しよ！！のこの人おると、それやつたらこの人にお見合いオファー送ってみようみたいな感じで代理で送るようにしてるので。そういうところで、会員さんが高知で恋しよ！！ばかりに流れてしまうとか、民間相談所の営利をそいでしまうみたいなところはないような形で、御縁つなぎができるようにしています。これから四万十町、四万十市とも提携を広げていく上で言っても、しっかりそこの手を組みながらも、営利をそがれないというようなところ。協力していくことは大いにできると思いますし、現時点、高知で恋しよ！！と提携して1年たちますけど、そこで物すごいうちの会員が高知で恋しよ！！にどんどん流れてるということないので、むしろ会員が増えてるような感じなので。そこは現状そんなに心配はしてないかなと思います。

◎上治委員長 これで終了したいと思います。これで意見聴取を終了いたします。

委員会を代表しまして、一言お礼を申し上げます。本日は、本当に大変お忙しい中、ありがとうございました。

本当に民間というところなんで先ほどの中でも、やっぱり一定の期限、だらだらだらいかない、やっぱりそれだけしっかりする、かっちりしてこうというところのお話もお聞きすることが出来たし、高知で恋しよ！！県を挙げて、各圏域でいろんな取組をされてるんで、そういうところとのマッチングも上手に民間の方も力を貸していただけるということをお聞きしました。それから土居委員からありましたように、県のほうとも上手に連携をとって、それから民間のほうの仕事を阻害しないで付き合っていく、上手にいけるからこれは県民にとっても大変いいことなので、私たち人口減少対策調査特別委員会としたら、結婚対策も1つの大きなテーマでありますので、これからもよろしくお願ひをいたしたいと思います。本日いただきました御意見、また今後の委員会の調査活動に生かしてまいりたいと思いますので、本日は本当にどうもありがとうございました。

以上をもちまして、こうち結婚推進協会会长井上陽平氏からの意見聴取を終了いたします。本当にどうもありがとうございました。

(こうち結婚推進協会会长井上陽平氏、退室)

◎上治委員長 次に、委員会の次回開催日についてでございます。次回の開催日につきまして、内容等を踏まえて、正副委員長で調整した上で、事務局から連絡させていただきた

いと思いますが、御異議ございませんか。

(異議なし)

◎上治委員長 御異議なしと認めます。それでは、日程が決定いたしましたら、また事務局から連絡させていただきます。

ほかに皆さん方、何か御意見ありますか。

(なし)

◎上治委員長 以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これで、本日の委員会を閉会といたします。

(16時6分閉会)